

News & Topics

カーデーズ・ロースクールとの交流会

弁護士研修センター運営委員会委員 石井 藤次郎（39期）
弁護士研修センター担当嘱託 林原 菜穂子（46期）

2008年6月3日、カーデーズ・ロースクール（米国ニューヨーク市所在）の学生19名及び引率教師1名が、アジア研修旅行の一環で東京弁護士会を訪れた。

同ロースクールは、昨年より20人程度の学生が主体となって、引率教員と共に夏休みを利用して日本を訪問し、最高裁、国会議事堂などを訪問したり、また、日本法のレクチャーやセミナーを企画して外国法の勉強を行っている。昨年は、偶々知人の紹介で松尾総合法律事務所にセミナーの依頼があったため、6月に同法律事務所にて日本の刑事訴訟実務についてセミナーを行った。その経緯もあり、8月に、研修センター運営委員会の委員数名がニューヨーク・ボストンの弁護士会ほかの研修制度を視察した際、同ロースクールのルーデンスティン学長にニューヨーク弁護士会の紹介を依頼したことが契機となって、本年の訪問となったものである。

この訪問に際して、研修センター運営委員会では、同ロースクール側の要請を受けて、東京弁護士会の会議室にて「日本の弁護士会の活動」及び「日本の家族法」に関するセミナーを実施した。

「日本の弁護士会の活動」に関しては、圓山司委員長が講師として、弁護士会が強制加入団体であること、弁護士会の財政基盤と弁護士自治の内容、地方会と日弁連との関係及び公設事務所システムを含む弁護士会のプロボノ活動

等につき講義をした。

「日本の家族法」に関しては、石黒清子委員が講師として、実例を挙げて、主に我が国の離婚法の特性の説明を中心に、離婚の各種方法と最近の法改正、破綻主義の流れと裁判所が離婚の許否を判断する要因などにつき講義をした。

学生たちは、寺田敏子委員の通訳を介してではあるが、約1時間半にわたる上記セミナーを受けた上で、2名の講師に対して多数の質問をするなど、興味をもってセミナーに臨んでいたことが感じられた。短時間ではあったが密度の濃いセミナーを行うことができた。

セミナー終了後、軽部龍太郎委員が弁護士会館内を案内し、役員室や図書館、会員室などを巡った。学生たちは、4階の面談室の利用方法などに関心をもった様子であった。

会館見学を滞りなく終えた学生たちは、研修センター運営委員会が主催した懇親会に参加した。懇親会では、山本剛嗣会長が駆けつけ歓迎の挨拶をし、研修センター運営委員会の委員だけではなく、国際委員会の委員数名も歓談に加わり、終始和やかな雰囲気であった。学生の話を聞くと、将来は日本関係の案件に携わる弁護士を目指していると語る者やアゼルバイジャンから米国に単身移住して弁護士を目指し、将来はアジア圏で弁護士として仕事をしたいと語る者など、さまざまに将来の希望を語ってくれた。

米国のロースクールの学生たちが日本の家族法や東京弁護士会の活動に興味を持っていることを知って、意外に思った反面、その学生たちの姿を見て、諸外国に視野を広げることの必要性を感じさせられた交流会であった。外国のロースクールの学生とはいえ、将来日本と関係する案件で弁護士活動を行う可能性は高いため、今回の交流会は大変有益であったと思う。

